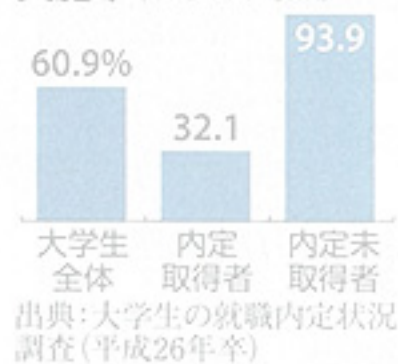


就活コンシェルジュ

友人たちが就職活動を終了していき中、自分はまだ内定がないので焦っています。自分の殻に閉じこもらず、周囲との関わりを活動継続の活気に

「周りが既に内定をもらっている人ばかりで、遊びや飲み会に誘ってくるのがつらい」「大学で内定者の人数が張り出されていて焦る」といった声が寄せられています。「内定獲得」「進路確定」など、うれしい報告は耳に入ってきたり、焦るのももっともです。気後れして周囲の人との関わりを避けて孤立しがちですが、それはさらなる焦りや不安を招き、軌道修正のチャンスも逃すことになりません。

就職志望者の就職活動実施率(6月1日時点)



未内定でも気後れせずに

例年、早期に内定が取れなかった学生も中盤以降に立て直し、納得できる就職先を見つけています。大学の求人情報や面接・選考書類などの準備支援を活用したり、学外の友人と話し合ったり、シュリしたりと対象や内容はさまざまですが、何らかの周囲との関わりをきっかけに、立て直して成功した先輩が多いです。

「臆せず周囲の人とオープンなコミュニケーションを取ることが、就職活動の継続に必要な活力や軌道修正のヒントにつながります。」(リクルートキャリア 就職みらい研究所 主幹研究員 江田佳子)

就職活動に関する疑問や体験をお寄せください。読者の参考になるものは、就活コンシェルジュで紹介させていただきます。(メール) life@sankai.co.jp (FAX) 03-3270-2424

終活

最後まで自分らしく

上

東京都江戸川区に住む無職の男性(71)は妻(69)と2人暮らし。一人娘は結婚して既に家を出ている。男性の家の墓は北海道にあるが、「夫婦でその墓に入るかは決めかねている」と打ち明ける。

長年の生活拠点から遠く離れているうえ、娘一家の住まいからも遠い。「都内に夫婦の墓を購入するか、北海道にある家の墓をこちらに移すか...。元気がうちに見学会などに参加し、気軽に供養してもらえらる方法を考えたい」

葬儀についても「なるべくお金をかけずに満足できるやり方を決めておきたい。費用も含めて準備しておくつもり」と話す。「娘に迷惑をかけたくない」との思いがあるという。

盛況なセミナー

流通大手、イオングループのイオンリテール(千葉市美浜区)が各地のイオン店舗などで行っている「終活セミナー」。最新の葬儀事情や墓の選び方、遺品整理の方法、自身の介護への備え、相続手続きなど、人生の「終わり」に

向けた準備について基本的な内容を学ぶことができる。昨年は約100回開催して約2万人が参加。今年も昨年以上に盛況だという。冒頭の男性も夫婦で参加していた。

「少子高齢化や核家族化、家制度の崩壊、地域共同体のつながりの希薄化...終活への関心の高まりの背景には、

従来は先祖代々の方法で葬儀を行い、長男であれば家の墓に入る、というのが一般的だった。分らないければ親族や菩提寺の僧侶、地域の顔役などに尋ねることもできた。しかし、実家から遠く離れて暮らす人が増え、「やり方が受け継がれにくくなっている」(広原さん)。「自分ら

終活を始めるにあたり、まず取り組みたいのが「エンディングノート」の記述。親族や友人・知人の名前や連絡先、金融資産、不動産などの状況、葬儀や墓の希望、遺言書の有無、大切な人へのメッセージなどをまとめておくものだ。「書く過程で人生を見つめ直すため、会っておきたい人やお世話になった人、これからやりたいこと、現在抱えている不安、心配などがはっきりと見えてくる」(武藤さん)

「エンディングノート」を活用



鉛筆を使い必要な項目から

約36万冊が売れたコクヨS&T(大阪市東成区)の「エンディングノート<もしもの時に役立つノート>」(1470円)をはじめ、書店などにはさまざまな種類のエンディングノートが並ぶ。

終活カウンセラー協会の武藤さんは「思いを伝えたいのか、情報を伝えたいのか、手軽に書きたいのか、じっくり書きたいのか。目的に合わせて書きやすいものを選ぶのがお勧め」とアドバイスする。

書く際は、必要な項目、書きやすい項目から埋めていく。何度でも書き直せるよう鉛筆を使った方がいいという。書いたことや保管場所を家族や信頼できる人に伝えておく。他人の悪口は書かない。法的な効力がないことを理解しておく。なども重要なポイントだ。

「最後まで自分らしくありたい」と考え、終活に力を入れる人が増えている。準備しておきたいことなどをまとめた。社会的な高齢化が進む中、エンディングノートは遺言書作成の準備にもなるという。

子育てなんでも相談室

Q 間もなく3歳になる娘がいますが、何でもイヤイヤで困っています。反抗期なのは分かりますが、わざと私を困らせているようにも見えます

A 2、3歳の頃に現れる反抗期は、別名「イヤイヤ期」と言われるほど何でも「イヤ」と言うのが特徴です。

「着替えようね」と言えば「イヤ〜」。着せてやろうとすれば「自分で〜」。ふんぞり返って泣き叫ぶこともあります。やさしく促

何でも「イヤイヤ」と言いつ

しても、好意でしてあげても、全て否定するので、親は「もう知らない!」と言いたくなることもあると思います。

でもよく考えれば、私たちも例えば、休みの日、まだパジャマ姿でいたいときに「着替えたら?」と言われて、「まだいい」と言います。

1人でできるのに誰かが手伝おうとしたなら「あ、いいよ」と断っています。街で「どうぞ」と差し出されたティッシュペーパーを笑顔で受け取らないこともあります。

「NO」の意思表示は毎日、誰もがしています。また、「NO」という権利は誰にでもあります。その

際、大人は相手のことを考え、相手が気分を害さない言い方で言いますが、子供はそれができません。断り方が下手なのです。

「イヤイヤ期」の子供は泣いたり怒ったりで、親はホトホト困ってしまうかもしれませんが、子供は単に「ノーサンキュー」と言いたかっただけ。お母さんを困らせようなんてこれっぽっちも思っていないのです。

子供が反抗期を迎えたら、「やっと自分の意思を表現できるようになった」と、その成長をむしろ喜んでほしいと思います。

(こどもコンサルタント 原坂一郎)

終活読本 ソナエ Vol.1 12日発売 全国主要書店で産経新聞出版